

奄美における高血圧，高コレステロール，高血糖， 肥満者の割合と生活習慣行動の実態について

宮原 洋八¹⁾ 長尾 哲男¹⁾

I. はじめに

奄美大島は，温暖な気候（平均気温21度），生活に密着した伝統文化（八月踊り，結い，島歌），豊かな食文化（黒砂糖，豚足，魚介類）など健康・長寿に関連の深い多様な資源を有しており，平成15年9月現在の人口10万人当たりの100歳以上の者は66人と沖縄県の42人より高い水準にある。

しかし，若年世代を中心に食生活の西洋化，日常生活のあらゆる面にわたる本土化にともなう運動不足，ストレスの増加など今後の健康面への影響が危惧される。

一方，平成12年度から厚生労働省¹⁾は，人口の急速な高齢化とともに生活習慣病およびこれに起因して要介護状態になる者の社会問題に対して「21世紀における国民健康づくり運動」（通称「健康日本21」）を開始した。奄美においても住民の健康づくりに対する意識を高めていく事を目標に「健康かさり21」計画を策定するために生活習慣アンケート調査を実施した。

本研究では，平成12年度の基本健康診断の項目の中で高血圧，高コレステロール，高血糖，肥満の有所見率を中心に，生活習慣アンケート調査報告書²⁾の結果と合わせて奄美の中老年の生活習慣を明らかにすることが目的である。

II. 方法

1. 対象

対象者は，平成12年6月に鹿児島県奄美市笠利保健センターにおいて基本健康診断を受けた40歳以上の受診者（40歳以上の人口4716人の内689人が受診）である。対象地域の笠利は鹿児島から南西へ下ること380

kmに浮かぶ奄美大島北部に位置し，サトウ黍と大島紬が基幹産業の町である。

2. 集計項目

性，年齢，身長，血圧（最高血圧，最低血圧），総コレステロール，血糖。

表 平成12年 健康診断における項目別有所見率（%）

	笠利町	鹿児島県	沖縄県
高血圧	49.6	14.6	9.6
高コレステロール	50.8	43.0	33.3
高血糖	19.2	12.1	12.5

3. 集計方法

肥満は体重（kg）/身長（m）²より Body Mass Index（BMI）を算出し，BMI25kg/m²以上の者。高血圧は最高血圧160mmHg または最低血圧95mmHg 以上の者。高コレステロールは220mg/dl 以上の者。高血糖は110mg/dl 以上の者。

III. 結果

性・年代別に各項目の高値者の割合について図1に示した。高血圧の有所見率は，男性では加齢にしたがって増し，女性では60歳代が高かった。高コレステロール，高血糖は男性では50歳代，女性では60歳代が高かった。肥満は男性では40歳代，女性では60歳代が高かった。

平成12年の笠利町，鹿児島県³⁾，沖縄県⁴⁾の健診における各項目の高値者の割合について表に示した。全ての項目で笠利町の有所見率が他の2県よりも高かった。

生活習慣アンケート調査報告書²⁾の結果を図2に示した。

受付日：平成28年4月1日，採択日：平成28年5月1日

1) 西九州大学リハビリテーション学部

〒842-8585 佐賀県神埼市神埼町尾崎4940-1

TEL：0952-37-9328 E-mail：miyabarahi@nisikyu-u.ac.jp

図1 各疾患別の有所見率

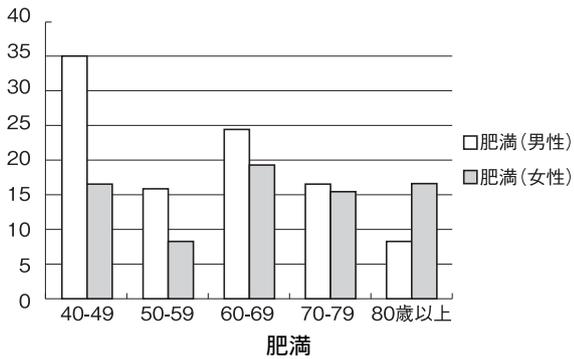
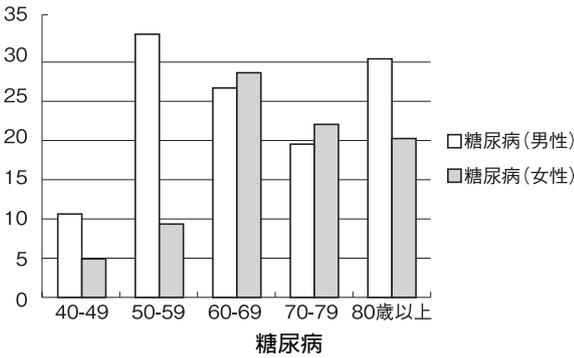
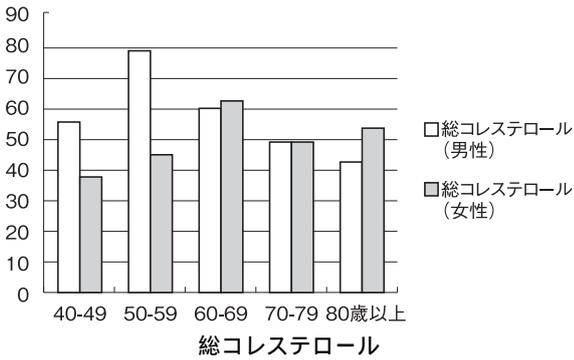
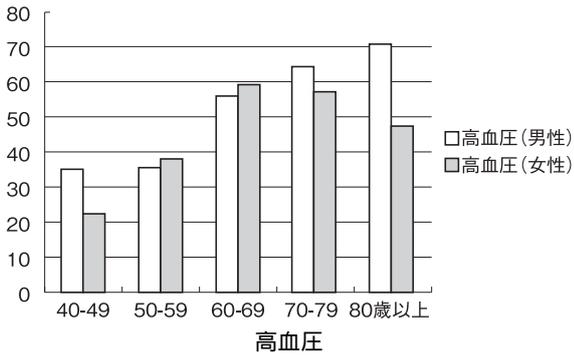
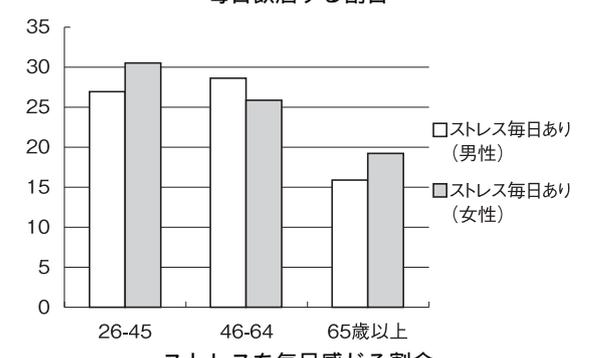
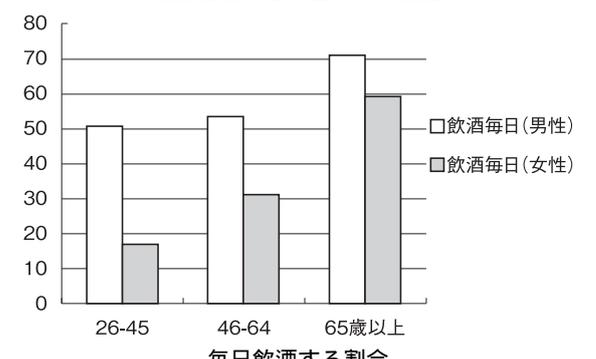
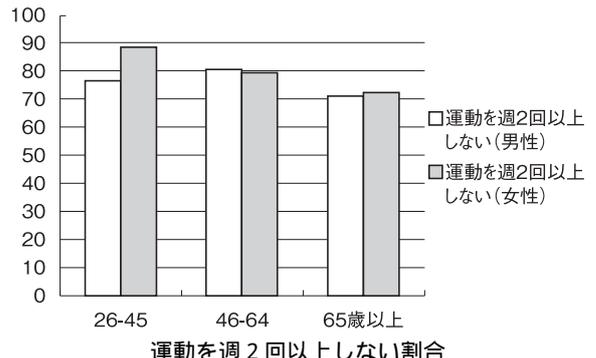
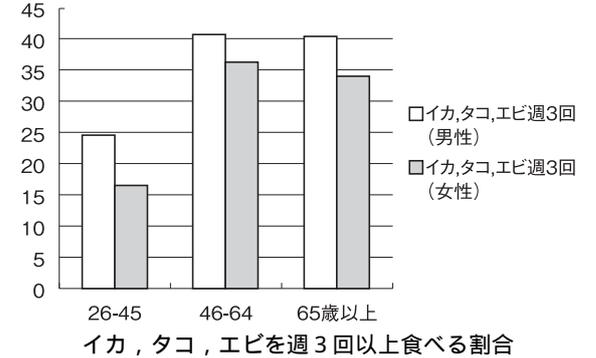
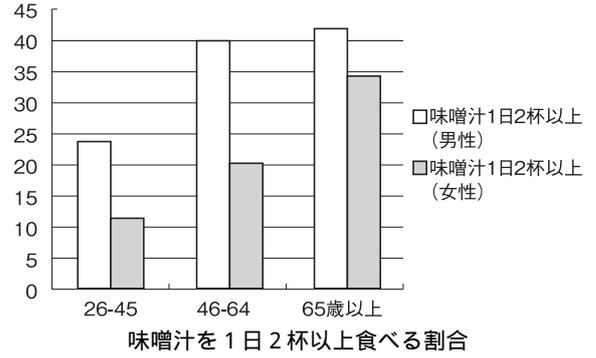


図2 アンケート結果の割合



Ⅳ．考 察

肥満，高血圧，糖尿病，高中性脂肪血症には共通の背景があり，これら4つを伴った場合には動脈硬化性血管合併症のリスクが著しく高くなるため，「死の四重奏」または「メタボリック症候群」と呼ばれる⁵⁾。

今回，笠利町で実施した基本健康診断の結果，高血圧，高コレステロール，高血糖の有所見率は，鹿児島県や沖縄県よりも高い値を示した。生活習慣アンケート調査報告書²⁾の結果と合わせてそれらの要因を推察すると，男性では「味噌汁を一日に2回以上飲む」習慣が中年層や高年層で高く，今回の調査にはなかったが，奄美の女性はお茶受けに「ピーナッツの入った味噌」を食べる習慣があることなどが高血圧の有所見率を上げている可能性が強い。さらに「毎日飲酒する」習慣が男女共に高年層で特に高かった。奄美は黒糖焼酎（25度・180ml・250Kcal）の産地の1つであるが，高濃度の焼酎を薄めずに飲む習慣があり，標準化死亡比で食道がんが男で1.9倍，女が1.3倍と共に高かった⁶⁾。飲酒にはコレステロールの上昇や動脈硬化の進展に及ぼす影響があり，高年者で高血圧罹患率においては適正飲酒であっても控える必要がある⁵⁾。今回の調査で高コレステロール，高血糖の有所見率が高かった要因としては，飲酒のほかに全年代における運動不足や「イカ，タコ，エビを週3回以上食べる」習慣が中年層や高年層で高いことが考えられる。昭和29年から今日まで奄美群島振興開発特別措置法⁷⁾のおかげで現在の奄美は生活環境整備が本土並みとなり，自家用車の保有台数も高い。また，ここ数年の間に大型スーパーやファーストフード店も進出してきた。若年層で「肉，ハンバーグ，ソーセージを週2回以上食べる」習慣が高いことや本来奄美は亜熱帯特有のテゲテゲ精神（おおらかでよくよしない）であるはずが若年層や中年層で「ストレスを毎日感じる」割合が高かった。

今まで奄美は沖縄と並んで長寿島として知られてきたが，本土復帰後，生活習慣も本土化してきたために若年層や中年層から健康状態が変化してきた。今回の健診の結果，高血圧，高コレステロール，高血糖の有所見率が，鹿児島県や沖縄県よりも高い値を示したことは驚きであった。本研究は横断的調査のためにはっきりとした因果関係はわからない。今後は縦断的調査を実施し検査値と生活習慣病についての詳細な関連を検討していく予定である。

Ⅴ．結 語

笠利町で実施した基本健康診断の結果，高血圧，高コレステロール，高血糖の有所見率は，鹿児島県や沖縄県よりも高い値を示し，本土復帰後，奄美の生活習慣も本土化してきたために3項目の有所見率が高くなった可能性が考えられる。

本論文を終えるにあたり，調査にご協力いただいた笠利町の住民ならびにスタッフの皆さんに深く感謝いたします。

引用文献

- 1) 厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室：21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）と健康増進法について，PTジャーナル，2004，38（6）：433-439．
- 2) 笠利役場いきいき健康課：健康かさり21，鹿児島，2000．
- 3) 鹿児島県保健福祉部健康増進課：鹿児島県の生活習慣病（資料編），鹿児島，2000．
- 4) 桑江なおみ，下地実夫，金城絹子・他：沖縄県における性別，年代別BMI，血圧，総コレステロール，血糖の平均値およびハイリスク者の割合，沖縄県衛生環境研究所報，2002，36：99-107．
- 5) 若林一郎：定期健康診断の結果からみた山形県内の産業従事者の血中脂質異常について，秋田県公衆衛生学雑誌，2005，2（1）：7-11．
- 6) 馬場みちえ，長弘千恵，赤司千淀・他：鹿児島県の離島における主要死亡率の地域差に関する研究，九州大学医学部保健学科紀，2003：41-50．
- 7) 鹿児島県大島支庁総務課：平成13年度奄美群島の概況，鹿児島，2001．